

VICTAS

The Birth for chopper.

「世界のカットマン」
「日本のプロ卓球のバイオニア」
松下浩二が
「VSV401」を語る。



11月にVICTASから発売される裏ソフトラバーはカットマン専用の「VSV401」。企画、そして開発を担当したのは「世界のカットマン」と呼ばれた松下浩二。世界で活躍したカットマンとしてこのこだわりをこの一枚に込めた。

「VSV401」が生まれるきっかけは？

松下浩二 攻撃用のラバーというのはたくさんあるけれども、カットマン用のラバー

スポンジを選び、トップシートはカットもやりやすく、かつ攻撃もできるという粘性を保ったものを選んだ。

この「VSV401」は微粘着のトップシートの効果でカットをすればそれほど弾まないし、安定したカットを送ることができる。ただし、硬めのスポンジなので攻撃もできる。台から離れての打ち合いでも打ち負けない。攻撃を多くしたい人は最も厚い2.0mmの厚さのスポンジを選べばいいし、カットを重視したい人は薄めのスポンジを選べばいい。

このラバーにはハイエナジー・テンションのテクノロジーを使ったというのですが。

松下 そうです。攻撃した時の威力を考えて、トップシートにテンションをかけています。日本のカットマンに関するノウハウとドイツのテクノロジーを融合させ、特に、粘着性のトップシートにテンションをかけたのはこの「VSV401」が初めてです。

最初は、粘着性のトップシートに軟らかいスポンジを組み合わせたら、どうも打球感が良くなかった。というのも、カットマン用のラケットは、カーボンなどを使った素材系ラケットではなく、やや弾みをおさえた木材ラケットがほとんどです。打球した時にカットマン用の木材ラケットは手に響くのですが、スポンジが軟らかいとさらに手に響いてしまうので、硬いスポンジを選択しました。硬いスポンジのほうが、VICTASのカット用ラケット「松下浩

VS > 401

お待たせしました。 カットの勇士たちよ。 攻守のバランスにすぐれたカットマン用裏ソフトが誕生！

遂にカットマン待望の裏ソフトラバーが誕生。世界を代表するカットマン、松下浩二が何回ものテストを繰り返し、こだわり続けた裏ソフトラバーが、ドイツと日本の英知を結集した「GJテック」によって開発された。徹底してカットと攻撃の安定性を追求。放たれたカットは低く安定した放物線を描き、相手コートに沈み込む。この理想のカットボールの軌道を実現した。また、粘着性のあるシートがカットの安定性を生み、硬いスポンジが攻撃力を作り出す。カットの勇士たちよ。このラバーを手にして相手の攻撃をねじ伏せろ。

「スポンジを硬くしていった理由は？」

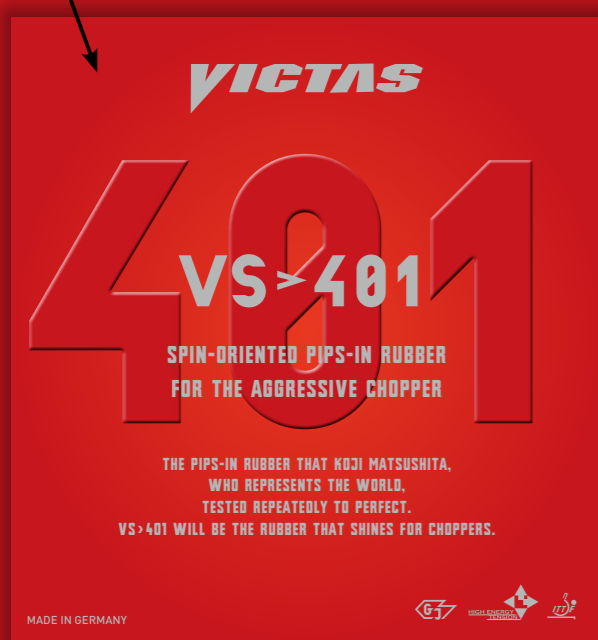
松下 どうしてもカットマン用の裏ソフトというのは、スポンジが軟らかめのものを使うというイメージがあります。初期段階で、軟らかいスポンジに粘着性のトップシートを組み合わせたら、打球の時にあまり良い感触ではなかった。そこで、自分の現役時代を考えると、皮付きの裏ソフトを使っていたので、「VSV401」でも硬い

をすると攻撃の威力は出ます。

つまり、引つかけるような打ち方をすると回転がかかり、ぶつかるような打ち方をするとボールをしっかり飛ばすことができます。攻撃の時のドライブでも引つけるとループドライブになるし、低く飛ばすような攻撃ボールを求めるならばぶつかるような打ち方のドライブをしたほうが良いのです。

今まで用具で悩んでいたカットマンの選手にはぜひこの「VSV401」をおすすめします。私もし今でも現役だったら、このラバーと「松下浩二」ラケットの組み合わせを使います。カットで拾いまくり、切りまくり、変化をつけて、威力ある攻撃球で相手を仕留めていく卓球ができるからです。

2011.
12月
発売予定



微粘着性 | 裏ソフトラバー | 1.5・1.8・2.0mm | ¥5,040 (本体 ¥4,800)

